

様式第2号 (第3条関係)

行政視察等報告書

令和8年2月13日

米子市議会議長様

(会派の場合)

会派名 自由創政

代表者氏名 戸田 隆次 (印)

提出者氏名 西野 太一 (印)

(議員の場合)

議員名 (印)

下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査	<input type="checkbox"/> 行政視察	<input type="checkbox"/> 要請・陳情活動
	<input checked="" type="checkbox"/> 研修会への参加	<input type="checkbox"/> 会議への参加	
参加者	田村 謙介、西野 太一		
期日	令和8年2月4日から 令和8年2月5日まで		
〔視察等年月日・場所・内容〕			
2月4日(水)			
14時～17時 豊島区東池袋1丁目20-10 としま区民センター (株)廣瀬行政研究所 市長経験者が明かす! 「一般質問の極意・AI活用編」			
2月5日(木)			
13時30分～16時 新宿区西新宿7丁目21-3リファレンス西新宿大京ビル 地方議員研究会 「これからの地方自治体と地方議会」ー財政危機を回避し持続可能性を確保するために			
〔視察等の目的〕 〔視察等要旨〕 〔視察等(説明)要旨に対する考え方、及び本市の事務事業に参考となる点〕			
※ 別紙のとおり			
経費	旅費	190,826円	
		合計 190,826円	

〔研修年月日・場所・内容〕

日時：令和8年2月4日（水） 午後2時～5時

場所：東京都豊島区東池袋1丁目20-10 としま区民センター

研修内容：市長経験者が明かす！「一般質問の極意・AI活用編」

〔研修の目的〕

「市民の声を形にする力」をデジタル技術で加速させる方法を身につけることや行政を動かすための「質問力」の向上と、生成AIを活用した議会活動の効率化・高度化を両立させることを目的とする。

〔研修等要旨〕

1. 悪い質問の特徴は以下のように分類される。

① 調べれば分かる事実確認だけの質問

事実や進捗確認ばかりだと議論が深まらず、答弁側にとっては時間消化になり「楽な質問」になってしまう。本来は事前に把握し、その上で本質的な問いに入るべき。

② 行政の取り組みや方針を聞くだけ

「今どうなっているか」「今後どうするか」を聞くだけでは議論にならない。ただの情報確認で終わってしまう。

③ 解決策・対案がない

議員は問題提起だけでなく、政策提案の主体であるべきで、「もっとこうしてほしい」だけでは議論のレベルが低い。

④ 批判に終始する

批判は必要だが、解決の方向性が示されないと意味がない。結論が見えず、政策につながらない。

⑤ 財源を考慮しない提案

財政が厳しい現実を踏まえ、財源や優先順位まで議論すべき。「あれもこれも」では実現性がない。

⑥ 論点を増やしすぎる

30分で6～7項目などは一つ一つが浅くなる。何のための質問か分からなくなる。

⑦ 与党的な馴れ合い・自己満足型

批判を避けて良いことだけ言うのも問題。自分の主張だけを展開する質問は議論にならない。

1. 良い質問の条件 (ポイント)

① 問題と原因を的確に示す

深い分析が質問の質を決める。質問の厚み・攻め方のスタートライン。

② 将来ビジョンとの整合性

総合計画や各種計画を理解した上で質問する。何が足りないかを明確化。

③ 具体的な解決策の提示

議員自身が政策案を持つことが重要。「行政に聞く人」ではなく「政策を動かす人」になる。

④ 行政との関係づくり

担当部署と問題意識を共有しておく。対立だけでなく協働も必要。

⑤ 財源と優先順位の議論

限られた予算の中で、なぜその政策を優先すべきか説明する。

⑥ 「検討します」で終わらせない

スケジュール、担当、期限まで具体化させる。次回の議会で進捗を迫る形にする。

⑦ 継続的に追跡する

定例会ごとに同じテーマを追い、政策を前進させる。

3. 質問構成の考え方

どの質問に時間を使うか事前に設計する。重要テーマに時間を集中させる。

「15分深掘り+短い確認事項」など戦略的に配分。

4. 議員に求められる姿勢

議員は「質問する人」ではなく、政策を主体的に組み立てる人。行政案に対する対案を持ち、共通認識を形成することが重要。共感と説得で政策を前に進める。

5. 市民に分かりやすい質問の重要性

議事録や動画は一般市民には分かりにくいことが多い。一問一答形式では特に「何を指す質問か」が見えにくくなる。市民目線で構造的・分かりやすくする必要がある。

〔視察等（説明）要旨に対する考え方及び参考となる点〕

良い質問とは「行政を追及すること」ではなく、問題を分析し、解決への道筋を示し、政策を前進させる質問である。また事実確認や批判で時間を使うのではなく、問題分析、解決策、財源、スケジュール、継続的フォローを意識することが成果につながるということであった。米子市議会においてもこれらの指摘事項を念頭に、市民に寄り添った分かり易い政策提言などを心掛け、行政サービスの向上につながるよう努力しなければならないと気づかされた講義であった。

〔研修会等年月日・場所・内容〕

研修会日時 R8年2月5日 13時30分～16時00分

場所 リファレンス西新宿大京ビル

研修内容 これからの地方自治体と地方議会
財政危機を回避し 持続可能を確保するため

〔研修等の目的〕

人口減少・少子高齢化が急速に進む中、地方自治体の財政は今後さらに厳しさを増すことが予想される。本研修では財政危機を回避し、持続可能な自治体運営を行うための考え方と先進事例を学び、公共施設の在り方、都市構造の再編、地方交付税制度への対応などについて理解を深めることを目的とした。

あわせて、米子市において今後必要となる財政運営・公共施設再編の方向性を検討するための知見を得る事を目的として受講した。

〔視察等要旨〕

- ・北見市の事例について
- ・浜松市の立地適正化計画による公共施設削減について
- ・合併算定替えと地方交付税の影響について
- ・人口密度と一人当たり財政支出の関係について
- ・都城市の公共施設再編の事例について

〔視察等（説明）要旨に対する考え方及び本市の事務事業に参考となる点〕

1. 北見市の事例

人口減少と合併による広域を抱える中で、人口密度の低下が一人当たり財政支出の増加に繋がっている実態を学んだ。特に、道路・上下水道公共施設などの維持管理コストが、人口減少局面では急激に自治体財政を圧迫することが示された。

2. 浜松市の立地適正化計画による公共施設削減

コンパクトシティの考えに基づき、居住誘導区域・都市機能誘導区域を設定し、公共施設を集約・再編している事例を学んだ。無秩序な施設維持を続けるのではなく、「使われる場所に集約する」ことで将来的な財政負担を軽減している点が紹介された。

3. 合併と地方交付税の影響

市町村合併後の「合併特例債」により、地方交付税が段階的に減少し、多くの自治体が財政的に厳しい局面を迎えている現状を確認しました。合併による規模拡大が必ずしも財政安定につながらないこと、合併後の財政構造改革の重要性が示された。

4. 人口密度と一人当たりの財政支出の関係

人口密度が低下するほど、行政サービス提供コストが増大し、一人当たり財政支出が高くなる傾向があることをデータで学んだ。「人口減少そのもの」よりも、「都市の広がり方」が財政に与える影響の大きさが印象的であった。

5. 都城市の公共施設再編の事例

公共施設の総量削減を明確に打ち出し、学校・公民館・体育施設を計画的に統廃合している事例を学んだ。市民への丁寧な説明と長期的視点に立った施設マネジメントの重要性が強調された。

〔本市の参考になる点〕

本市においても、今後の人口減少を前提に、公共施設を「今の規模のまま維持する」ことは現実的ではない。

将来的に過度な負担を残さない為、施設の統廃合や複合化を計画的に進める必要がある。特に老朽化した施設の更新時期を「再編のチャンス」と捉える視点が重要である。

中心市街地活性化を進め、維持管理コストが過度に増大しないまちづくりが求められる。

将来像を明確にし、市民に丁寧に説明しながら公共施設再編を進め、単発的な反発を恐れず、10年、20年先を見据えた議論を議会としても主導すべきである。

旅費計算表

令和8年2月4日 ～ 令和8年2月5日 (1泊2日)

東京都
自由創政
会派
研修

月 日	区 間	鉄道路線 名	区 間 キ ロ 数	目的地まで のキロ数	運 賃	グリー ン	急 行 料 金		宿 泊 手 当	宿 泊 費	
							特 別	新 幹 線	(朝食付き)	東 京 都	
2/4	米子空港～羽田空港	ANA	776.0		36,620				1,600	27,000	
(水)	羽田空港～品川	京急	14.5		327						
	品川～池袋	JR	15.4		274						
	(研修)										
	池袋～新宿	JR	5.9		167						
2/5	新宿～品川	JR	10.6		208						
(木)	品川～羽田空港	京急	14.5		327						
	羽田空港～米子空港	ANA	776.0		往復						
計	議員旅費			54,823	37,923	0	0	0	1,600	15,300	0
	随行旅費			0							

出席議員 田村議員、西野議員

議員旅費	54,823 × 2名 =	109,646 円	自宅～米子空港までの自家用車代	18km × 25円 × 2 =	900 円(田村議員:片道18km)
研修受講料	30,000 × 2回 =	60,000 円	自宅～米子空港までの自家用車代	22km × 25円 × 2 =	1100 円(西野議員:片道22km)
振込手数料(池袋と新宿)	440 × 2回 =	880 円			② 2000 円
航空券キャンセル料(岩崎議員分)	17,860	17,860 円			
払戻手数料	440	440 円			
		① 188,826 円		①+② =	190,826 円